

様式第2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第11条 活動報告)

団体名	和	科学技術データ委員会
	英	Committee on Data of the International Council for Science (略称 CODATA)
	団体HP (URL)	http://www.codata.org/ (日本学術会議が加盟していることの記載 (有) ・ 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		<ul style="list-style-type: none"> ・世界的な Open Data, Open Science の動きを受けて、ISC のデータ委員会として RDA (Research Data Alliance), WDS などとの協力、Data Policy, Data Citation のガイドライン策定等、研究データ共の基盤となる活動が拡大している。 ・ICSU と ISSC が合流して ISC となったことを受け、科学技術データのみならず社会学的なデータまで活動範囲を拡大することを考慮して 2018 年 11 月の総会において Executive Committee のメンバーをこれまでの 8 名から次回の総会以降 10 名に拡大することが決議された。 ・設立当初からのタスクである物理定数に関しては昨年、質量の基準を改定するに当り、プランク定数の CODATA 推奨値が用いられている。この値の測定には我が国の産業技術総合研究所が大きく貢献している。 ・African Open Science Platform の活動に対し、CODATA 役員が Advisory Council, Technical Advisory Board に加わり、協力体制を構築している。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		<ul style="list-style-type: none"> ・研究データの共有に係る Data Management Policy, Data Citation に関する Task Group が活動し、各国でのワークショップ、報告書などが出版された。 ・RDA, ICTP (International Centre for Theoretical Physics) などとの協力により、イタリア、ブラジル、ルワンダなどで Data Science School を開催している。 ・2018 年総会では、スマートシティへの Data Integration の適用、データのアクセスと再利用の改善などデータの利活用に関わる 8 つのタスクグループが採択された。
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて		<ul style="list-style-type: none"> ・2010-2014, 2014-2018 年の二期に渡って五條堀孝教授が Vice President としてオープンデータ、研究データの国際的な共有体制へ向けての CODATA のプレゼンスの拡大に尽力された。
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて		<ul style="list-style-type: none"> ・世界的なオープンデータ、オープンサイエンスの動きの中で、国際的な基盤となる Data Citation、Data Policy の国際的な基準へのアクセス・関与が可能となっている。
その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など)		<ul style="list-style-type: none"> ・近年、CODATA-RDA Data Schools を通じて中進国でのデータサイエンス教育に力を入れており、研究データの活用における GO-FAIR (Global Open – Findable, Accessible, Interoperable and thus Reusable) Initiative の中で、3 つの柱の 1 つである GO-TRAIN (Training) の主要な役割を果たそうとしている。

様式第2 (第12条関係)

2 今後の予定について (内規第11条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)	予定なし
日本人の役員立候補等の予定について	次回総会は2021年に予定されているが、Executive Committeeへの候補推薦を予定している
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	WDS-IPOおよびWDS国内委員会 (WDS小委員会) と共同でICUにおけるデータの集積・管理、データポリシーなどデータに係る活動の体制について提言を行う予定。

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第11条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去5年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	2014年 (開催地: ニューデリー)、2016年 (開催地: デンバー)、2018年 (開催地: ハボローネ)、
	理事会・役員会等開催状況	2014年 (開催地: ニューデリー)、2016年 (開催地: デンバー)、2018年 (開催地: ハボローネ)、 上記は総会開催時に実施したものであるが、オンラインミーティングを1ヶ月に1回程度、対面でのミーティングを3ヶ月に1回程度実施。
	各種委員会開催状況	2014年 (開催地: パリ)、2014年 (開催地: ナイロビ)、2016年 (開催地: 北京)、2017年 (開催地: セントポール)、 タスクグループ・ワーキンググループのCODATA国際会議における会合と活動報告、オンラインミーティングなどが随時行われている。
	研究集会・会議等開催状況	2014年 (開催地: ニューデリー)、2016年 (開催地: デンバー)、2017年 (開催地: サンクトペテルブルク)、2018年 (開催地: ゲッチンゲン)、2018年 (開催地: ハボローネ)、2019年 (開催地: フィラデルフィア) 他多数のデータサイエンス活動に関わる研究集会を共催・後援している。
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	2014年 SciDataCon 2014 (ニューデリー) 7名 2014年総会(上記国際会議期間内に実施) (ニューデリー) 3名 (うち代表派遣: 岩田修一) 2016年 International Data Week 2016 (デンバー) 31名 (うち代表派遣: 大西隆) 2016年総会(上記国際会議期間内に実施) (デンバー) 5名 (うち代表派遣: 小関敏彦) 2017年 CODATA Conference (サンクトペテルブルク) 2名 2018年 International Data Week 2018 (ハボローネ) 9名 2018年総会(上記国際会議期間内に実施) (ハボローネ) 3名	

様式第2 (第12条関係)

国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去5年)	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	Vice President	2010～2018	五條堀孝	(21,22,23,24 期) 会員・ <u>連携</u>
	Executive Committee Member	2018～2021	芦野俊宏	(24 期) 会員・ <u>連携</u>
		～		(期) 会員・連携
		～		(期) 会員・連携
		～		(期) 会員・連携
		～		(期) 会員・連携

出版物	1 定期的 (年 回) 主な出版物名
	2 不定期 (年 30 本程度の記事を公開) 主な出版物名 Data Science Journal

活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載

CODATA Web サイト (<http://www.codata.org/>)
 CODATA による報告書などのリポジトリ (<https://zenodo.org/communities/codata/>)
 国際会議開催状況 (<http://www.codata.org/events/conferences>)
 トレーニング・ワークショップ開催状況 (<http://www.codata.org/events/training-workshops>)
 CODATA Recommended Values of the Fundamental Physical Constants
 (<https://arxiv.org/abs/1507.07956>)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	情報学委員会国際サイエンスデータ分科会
	委員長名	小関敏彦 (～2019年1月10日) / 村山泰啓 (2019年1月10日～)
	当期の活動状況	(開催日時 主な審議事項等) 2018年1月11日第1回 分科会委員紹介、役員互選、CODATA 小委員会・WDS 小委員会の設置について 2018年4月10日-4月20日第2回 (メール審議) 幹事の追加について 2018年8月20日-8月27日第3回 (メール審議) 公開シンポジウムの開催について 2018年11月19日 公開シンポジウム「科学データの保存・利用態勢の強化と国際展開」開催 2019年1月10日第4回 運営体制の変更について、CODATA 総会報告 2020年1月9日第5回 CODATA 小委員会・WDS 小委員会報告・代表派遣申請、CODATA 会議報告、今後の関係日程 2020年4月20日-4月27日第6回 (メール審議) 記録案の承認について

様式第2 (第12条関係)

内規第3 (国際学術団体の要件関係)	国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である ①. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (https://codata.org/about-codata/codata-constitution/)	
	各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か) ①. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (https://codata.org/about-codata/codata-constitution/)	
	下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印)	
	ア 個々の学術の専門分野における統一的かつ世界的な組織を有するもの イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一的かつ世界的な組織を有するもの ⑦ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの	
	10 カ国を超える各国代表会員が加入している ①. 該当する 2. 該当しない	
	加入国数及び主要な各国代表会員を10記載	(18ヶ国) ・各国代表会員名/国名 National Academy of Sciences/United States Russian Academy of Sciences/Russian Federation Chinese Academy of Sciences, China/China Academy of Science in Taipei/China:Taipei National Research Council of Canada/Canada Digital Curation Centre, Research Councils UK and the Royal Society/United Kingdom The Australian Academy of Science/Australia Indian National Science Academy/India National Research Foundation/South Africa Israel Academy of Science and Humanities/Israel